

敷島北小学校 学校関係者評価書

平成29年2月9日(木)

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：平成29年2月9日(木) 午後2時40分～

会場：敷島北小学校校長室

学校関係者評価委員：山本重高 佐藤康樹 石橋浩二 小田切保人

中込潤一 保延浩子 渡辺 悟 相吉ちあき

学校側：校長：石川 健 教頭：齊藤 光 教務主任：松橋 勝

I 学校側から提案された内容

学校側から12月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

①「自己評価」(教職員アンケート)結果から

I 学校教育目標・学校経営について

全ての項目において「A そう思う」の評価が一番多く、学校経営が円滑に行われているといえる。特に学校経営の根幹である教育目標については、全員が同じ認識をもって日々の教育活動に取り組んでいる。ただし、P→D→C→Aサイクル「Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価・検証)、Action(改善)」については、意義とその重要性を確認し、さらに意識的・計画的に実践していくことが必要である。

II 学校運営について

全体的に良好に推移している。危機管理マニュアルに関しては、今年度も数回、地震や火災を想定した避難訓練を実施し、児童とともに職員も実践的な訓練を行うことで体験的に緊急時の対応のあり方を掴むとともに、マニュアルについても理解を深めてきた。万が一の場面が発生したときには的確な行動がとれるようにマニュアルの理解をいっそう努めていく必要がある。

III 学習指導について

学習指導については、概ね肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら個に配慮した授業を行っている様子がうかがえる。評価を意識した授業や、質問や発言が出やすい授業づくりについては、さらなる改善が必要であると判断している傾向がある。道徳の指導については、教科化の実施が近づいてきており、さらに研修を深めていくことが必要である。

IV 生徒指導について

全体的に肯定的な評価になっている。キャリア教育については教育課程に位置づけてから数年が経過してきているが、その内容をきちんと踏まえた上で教科指導や生活指導を行っていくことが必要である。児童への指導については、問題行動の早期発見・早期対応を心がけているが、児童の心に寄り添い、良き相談者たるべき姿勢を持ち続けていきたい。

V 地域との連携について

本校のPTA活動や地域との連携については、肯定的な評価が多く、学校側から情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができてきているといえる。さまざまな場面で地域の方々にご協力いただき貴重な体験をさせていただいているが、さらに内容を検討し、教材開発をすることを日頃から心がけていきたい。市全体と比較して肯定的な回答が多いものの、保護者からの要望等の情報収集については、これからも受け身にならないような工夫が必要である。

VI 学校の特徴に関して

あいさつや読書活動については、児童会や委員会が中心となり取り組みを進めて定着してきているが、教職員自身の指導という視点からみると、その取り組み方にはまだ向上の余地があるという結果である。体力向上への取り組みは、業前活動で行ったたてわり遊びやなわとびなどの活動が全校に広がり、主体的に体を動かしている児童が多く見られた。

②「児童アンケート結果（全体の結果）」から

学校〔1〕

学校が「とても楽しい」という児童は昨年度よりも若干減少したものの、9割以上の児童は「楽しい」としている。しかし、市全体や昨年度の本校の結果とほぼ同程度の児童は否定的な回答をしている。

友達・対人関係〔2～4〕

仲の良い友達が「たくさんいる」のは6割強であるが、「いる」も含めた肯定的な回答は95%以上になり昨年度を上回っている。相談できる友達が「いる」のは8割弱であるものの、人を進んで助けることに肯定的な回答は9割近くにのぼっている。

授業・学習理解〔5～9・11〕

9割以上の児童が「学校の授業は楽しい」と回答し、「先生はよく勉強を教えてくれる」に肯定的な回答は99%にのぼっている。その一方で、国語や算数の授業の内容がわかっているとするのは9割弱で、1割ほどの児童は内容の理解が難しいとしており、その傾向は算数でより顕著になっている。わからないことがあったときに先生に聞くのは7割強の児童で、聞いていない児童も3割近くいる。授業中に質問や意見を言うとする児童は6割強であり、昨年度より若干の向上しているものの、まだ発言することに対して消極的な面がみられる。

先生〔6・9・10〕

「先生はよく勉強を教えてくれる」に対して肯定的な児童が99%、「困ったことがあったら相談できる先生がいる」のが8割を超えており、教員に対して好意的で良い師弟関係ができてきているといえる。だが、それと比較すると勉強でわからないことを先生に聞く児童は少ないといえる。

宿題・家庭学習〔12・13〕

9割の児童は宿題を忘れずにしていると答えており、「よくしている」児童の割合は昨年度より多くなっている。学年の目標時間の勉強については、いつもしているのは4割弱であるものの、「だいたいしている」まで加えた肯定的な児童は8割近くになる。しかし、宿題と家庭学習について、ごく少数ではあるが「していない」と回答している児童もいる。

家庭〔14・15・17〕

家の人と学校での様子を話している児童は8割を超えており、多くの家庭では日常的に学校の様子について保護者とやりとりをしている様子がうかがえる。就寝時間については市全体の分布傾向とほぼ同じで、8割以上の児童は午後10時までには就寝しているものの、午前0時近くまで起きている児童も見受けられ、午前1時過ぎとする児童もいる。朝食をいつも食べている児童は昨年度よりも減少しているものの、「だいたい食べている」までを含めると95%近くなるが、食べていない児童もみられる。

地域〔16・18〕

地域の行事への参加については、8割近くが肯定的な回答であり、昨年度と比較して「参加していない」が減少し、「よく参加している」が増加している。地域の人とのあいさつの様子は、9割近くが肯定的であるが、「よくしている」という積極的な回答が昨年よりも若干減少している。

読書〔19・25〕

家や図書館での1日あたりの読書時間は、30分から1時間未満という児童が最も多かった。昨年度よりも2時間以上とする児童が減少したが、「全くしない」児童も少なくなっている。本を読むことについて9割近くの児童は好意的な回答をしており、これまでと同様の高い割合を示している。

夢・希望〔20〕

将来の夢や希望を「しっかり持っている」「持っている」を合わせると9割以上になり、昨年度や市全体よりも多くなっている。

きまり・約束〔21〕

学校のきまりや約束ごとを守ることにについて、9割以上が肯定的な回答をしており、「よく守っている」は昨年度同様に市全体を上回っている。

勤労〔22・23〕

清掃活動に「しっかり取り組んでいる」「取り組んでいる」とする児童が96%を超え、全校的に、きちんとした取り組みの様子がうかがえる。委員会活動については、取り組んでいないという回答は無く、役割をきちんと果たそうとしている高学年の姿を見て取れる

聞く・話す〔26・27〕

「先生や友だちの話をしっかり聞く」については、「よくできている」は昨年度よりやや減少したものの、肯定的な回答の割合は9割以上になっている。「自分の考えを話すこと」については、話を聞くことよりも消極的な傾向がみられるものの、授業中の発言の様子よりも肯定的な回答が多く、普段の場面では自分の考えを伝えようとしている姿がうかがえる。

③「保護者アンケート結果」から

・学校全般〔1・3・4・5〕

児童にとって学校は楽しいところだとする肯定的な回答が95%強で、昨年度よりも若干増加している。学校からの情報で様子を知ることができるというのが9割以上、授業参観などが様子を知る機会になっているとするのが95%ほどになっており、保護者が学校の様子を知ることができている様子がうかがえる。保護者・地

域の声に耳を傾けていることに肯定的な回答は85%ほどで、昨年度を上回り市全体よりも高くなっている。

友達〔2・14〕

9割以上の保護者は子どもの仲の良い友達を知っているとしているものの、相談できる友達がいるとするのは65%ほどであり、昨年度や市全体と同様である。

学校の指導〔6・16・23〕

子どもの間違った行動への指導は約84%、挨拶の指導は8割ほど、学校行事や児童会行事の取り組みについては9割以上が肯定的な回答であり、昨年度と市全体と同様の傾向を示している。

家庭でのしつけ・指導〔7・17・18・25〕

しつけによく力を入れているとする保護者は2割を超え、昨年度や市全体を上回っているが、あまり力をいれていないとする回答も昨年度や市全体よりも多い。家庭での互いの挨拶を積極的にしている家庭は昨年度を下回っているものの、肯定的な割合はほぼ同様である。地域の人と出会ったときの挨拶をするようによく言っているのは、昨年度とほぼ同じ割合であるが市全体を上回っている。子どもが家で学校の話をよくする割合は昨年度より増えて5割に近いが、あまりしないという家庭も増えている。

学習理解・授業〔8・11〕

授業の内容の理解については8割強が肯定的、学校の授業への取り組みについては9割が肯定的で市全体とほぼ同じであるが、ともに積極的な肯定が昨年よりも増えている。

睡眠・朝食〔9・10〕

子どもの平均睡眠時間は8時間以上とする保護者が9割以上であるが、昨年度よりも減少しており、7時間くらいとする回答が増えている。朝食については、95%以上が食べているとしているが、「いつも」食べているという回答は若干減少している。

宿題・家庭学習・読書〔12・13・22・24〕

宿題への取り組みは95%が「だいたいしている」、もしくは「忘れずにしている」と回答している。家庭での自主学習については、肯定的な回答が6割以上となって昨年度よりも向上している。家での読書については、昨年度に比べ読書時間が分散して、1時間以上が増える一方、10分未満も増えており、全くしないのも一定数みられる。子どもが本を読むことが好きだと思う保護者は減少している。

対先生〔15〕

子どものことで相談できる先生がいるという保護者は7割弱で昨年を下回っているものの、「いない」という否定的な回答は減少している。

地域〔19〕

地域の行事に子どもが参加していることに75%の保護者が肯定的であり、昨年度と同様の傾向をしめしている。

PTA〔20〕

8割以上の保護者がPTA活動の参加に肯定的であり昨年度や市全体とほぼ同じである。

夢・希望〔21〕

保護者の8割以上は子どもが将来の夢や希望をもっているにとらえている。

④アンケートの相関から

教職員—保護者

「保護者・地域の声に耳を傾けている」という項目については、教職員も保護者も85%ほどが肯定的であるが、肯定のうち「とても思う」という評価は教職員(53%)と保護者(15%)と隔たりがある。「保護者のPTA活動への参加」については、教職員の全員が肯定で、7割以上は「よく参加している」としているのに対し、保護者は2割弱が否定的で、「よく参加している」も25%となっている。教職員が保護者の活動を総括的に見るのに対し、保護者は個の視点で判断しているという違いにもよると思われる。

教職員—児童—保護者

学習指導について、児童の8割近くが「よく教えてくれる」と評価しているのに対し、教職員は「学びの意欲を喚起する授業を行っている」について「そう思う」とするのが6割、保護者では「熱心に授業に取り組んでいる」について「とてもそう思う」が2割強となっており、相対的に保護者の評価がやや低い様子がみられる。また、規範意識の高揚についても、児童と教職員の56%が「きまりや約束を守るようによく指導している」としているのに対し、保護者で「よく指導している」と回答したのは13%となっている。

児童—保護者

児童の友達関係について、「困ったときに相談できる友達」が「いる」と8割近くの児童が答えているのに対し、保護者が「いる」としたのは6割強で、17%の保護者は「わからない」との回答であり、友達の把握が難しい様子がうかがえる。宿題について、「よくしている」としたのは児童も保護者もほぼ同率(児童65%、保護者64%)である一方、「している」としたのは、児童が25%、保護者が31%とやや隔たりがあり、保護者は子どもが宿題をしていると思っているが、実はあまりやっていない児童もいるということがいえる。

(2) 今後の方針

① 「自己評価」(教職員アンケート)結果から

- ・6学年中5学年が単級であり、学級担任の役割や校務分掌の負担が多くなるとともに、他の教職員との連携や意見交換等がなかなか持ちにくい状況もある。児童の指導に担任だけが関わるのではなく、全教職員で敷島北小学校の子どもたちを育てていることを、教職員一人一人が常に意識し、報告、連絡、相談、確認をお互いに率先して行いながら、共通理解のもとで教職員集団として児童の指導にあたり、よりよい学校運営をめざしていく。
- ・児童の行動や状況で問題点や気がかりなこと等については、定例の生徒指導校内委員会で共有化を図っている。今後も問題行動の早期発見に努めることは当然であるが、その対応には全教職員が同一の方向性を持ち、学校として一貫性をもった指導を行っていく。

② 「児童アンケート」結果から

- ・多くの項目で「D」評価の割合が昨年度よりも減少しているものの、肯定的ではない回答をしている児童が項目によっては少なからずおり、そうした状況について全教職員が共通認識をもち、児童一人一人に、より一層の目配りや心配りをしながら、情報を共有しつつ、児童の個に応じた指導を心がけて、全校体制で指導にあたっていきたい。
- ・多くの児童が、学校が楽しく、勉強もよく教えてくれると評価していることを糧にして、そうした気持ちに応えるべく、児童がより良い学びができる授業や、毎日が充実した学校づくりをしていくために、指導の工夫や改善を積み重ねていくとともに、児童が喜びを感じ取れるような諸活動の運営を進めていきたい。

③ 「保護者アンケート」結果から

- ・多くの保護者に、子どもにとって学校は楽しいところであるととらえていただいております、そうした思いをこれからも持ち続けてもらえるように、児童、保護者、地域、教職員が一体となり、より充実した教育活動を行っていくために、更なる連携強化に努めるとともに、開かれた学校づくりを進めていきたい。
- ・保護者が、学校での学習指導や保護者との連携に概ね満足はしているものの、更なる信頼、協力を得るために内容の改善をはかり、分かる授業、楽しい授業を全校体制で研究していきたい。
- ・人数は少ないものの、保護者アンケートで「D」と回答された項目がある。また、肯定的であっても、全体的に「B」の評価が多くなっている。これは、保護者がより学校教育に期待していることの表われととらえることができる。そうした背景を考察して保護者の気持ちを理解しつつ、ともに児童の健やかな成長に寄与できるよう、より一層連携を密にして、改善を図っていきたい。

II 協議された主な内容 (Q…評価委員 A…学校側)

学校関係者評価委員会に先立ち、5校時間帯に授業参観の場を設け、学校の現状、児童の様子などを観察していただいた。3、4年生の授業参観もあって保護者の参観の様子も合わせて見ていただいた。

① 学習面のこと

(Q) 授業は90%の児童が楽しいと言っているが、理解できない児童に対しては何をしているか。

(A) 担任が、休み時間、放課後に個別対応をしている。一斉授業ではフォローできないのが現状である。

本年度12月より土曜学習を始めた。地域の方々に先生として参加していただき、マンツーマンに近いかたちで指導をしていただいている。全校児童に呼びかけ、参加希望者は1年～6年の12名である。使うプリントは各担任が児童の実態に合わせたプリントを用意している。

来年度は全ての学年が単級になり、担任一人で一クラスを見なければならぬことを考えると、責任が重くなる。クラス替えがないので人間関係がうまくいかないとその後が厳しくなる。

担任の教師力が全てであるので各種研修、校内研究等を積極的に利用して一人

一人の教師力を高めなければならない。

② 児童の友達関係について

(Q) 「困った時に相談できる友達がいる」の項目のC評価が増えているがどうなのか。

(A) 学年による差がある。子どもの日常会話から、いじわる、仲間はずれなどがクラスの間関係に大きく影響するクラスもある。児童との個別の面接や保護者との対応を迅速に丁寧に行うことで解決してきた。

学校としてもクラスの間関係を分析し、学級の中へ投げかけ、問題を一人一人の児童が自分の事として考えさせる必要がある。

③ 読書週間について

(Q) 全く読書をしていない子がいるのが心配である

(A) 読書習慣をしっかり身に付けさせなければいけない。朝読書は先生も一緒にすることが望ましい。読んだ本のおもしろいところを少しでも書く習慣を付けさせたい。

- ・人前で話をするのが苦手な児童が多いのではないか。クラスで本を読む時に全員が人前で発表することは児童のためにはよいと思う。
- ・人の話がどのくらい聞けるかが大切
- ・小集団の中で発表することで発表することには慣れてくると思う。

④ いじめについて

(Q) いじめはあるのか

(A) 担任は「いじめではない」というものの他者から見たら「いじめである」と思われる事例があったので、疑わしいことは学年に留めず管理職や生徒指導担当者に相談したりして全体での理解を深め、判断できるようにしなければならない。いじめに関する学習会を行い、統一の見解ができるようにしている。教師の一言が「いじめ」になることがあるので気を付けなければならない。ニックネームがいじめの対象になることもあるので十分に気を付けたい。

⑤ 関係者評価委員さんから一言

- ・家によっては親の仕事の都合で子どもとの会話がなくなることがある。このような家庭は増加しているので、家庭環境を学校で理解してもらいたい。
- ・授業を見た感想で、教師の指導がもう少し徹底していたらいい場面があるように思えた。
- ・学校の勉強が分からない子が少なくなってくればいい。近くの子はあいさつをよくしてくれる。
- ・おやじの会で稲作の指導をしていただいているが、稲刈り等の作業を親も一緒に参加することも必要ではないか。
- ・4年生までに宿題をする習慣を定着させる事が大切。学校では枠の中に記入するプリントが多いが、自分の考えをノートに書く力が落ちていると思う。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 1 教職員が自信をもって教育活動に取り組むことが、児童の積極性につながるので自己評価で「A評価」が多くなるよう努力してほしい。
- 2 学習したことが分かる楽しい授業、クラスの中でお互いを認め合い、お互いを大切にできるクラスづくりがどの学年でも行えるようになってほしい。
- 3 児童アンケートの「学校は楽しい」「仲良く遊ぶ友達がいる」「わからないことは先生に聞ける」などの項目で、さらに「C評価」が減り、「A評価」が増えるように取り組む必要がある。

II 特徴

- ・今回の教職員の自己評価、児童及び保護者アンケートの結果から、全体的に「A・B評価」がほとんどを占めて、良好な結果であった。しかし、児童アンケートで「A評価」の割合が下がった項目が目立った。
- ・授業中に質問や意見を言う児童が増えてはいるものの、市全体との比較で、「授業でわからないことがあったら、先生に聞く」で、「A評価」の割合が少ない。
- ・本校は、PTA、おやじの会、母親の会などの地域の協力を得ており、子どもたちの教育環境は良好であるが、「地域の行事に参加する」という項目で、積極的な回答が市全体よりも低いので、家庭への啓発も必要である。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇「学校が楽しくない」「仲良く遊ぶ友達がいらない」「困ったときに相談できる友だちがいらない」と感じている児童がいることは課題である。「Q-U検査」の結果等も踏まえて、注意深く見守る必要がある。引き続き、発達段階に応じた指導・支援に力を注ぎ、きめの細かい学級指導をしていく必要がある。
- ◇教職員間の共通理解を図り、短期的、長期的両方の視野をもち、さらに充実した指導・支援体制を築いていくことが望まれる。

※特記事項

なし

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 渡辺 悟